熊毛地区社会教育委員だより

令和５年２月発行
熊毛地区社会教育
委員連絡協議会

コロナ禍でも歩みを止めない社会教育を目指して

熊毛地区社会教育委員連絡協議会
会長　塩﨑　義政

未だ終息の見えない新型コロナウイルス感染症の大流行により，私たちの生活は大きく変化し，早３年が過ぎた。我々の社会教育・公民館活動も大きく方向転換を余儀なくされ，多くの行事等が中止や縮小を強いられたが，最近ではウィズコロナで対策を講じながら開催できるものも少しずつ増えてきたように感じる。会議等においても，書面決議が少なくなり，一堂に会し対面での開催が増えつつあることは，コロナ禍においての日常回帰への一歩前進である。

また，感染症対策のほか，遠隔地と繋ぐことのできるツールとして，オンライン会議も便利ではあるが，やはり，人と人とは実際に会って話をしなければ，その人や会場の空気感というものも掴めず，対面開催の重要さやありがたさを改めて感じたところである。

社会教育・公民館活動とは，人が集い，共に語らい，密になって活動していくものと承知してきた。その密を避けなければならない状況が続くなか，感染症対策を講じながら，知恵を出し合い，創意工夫を凝らすことで，コロナ禍においても社会教育の歩みを止めないことが今求められている。

私が区長を務める上西校区でも，多くの行事が中止を余儀なくされた。その中でも，今年度は伊勢神社「秋の大祭」での子供たちによる相撲など再開できたものもあり，社会教育の灯を消すことなく，できることから少しずつ歩みを進めている。

今後も波のように感染症の流行が何度も押し寄せることが予想されるが，社会教育に対する熱い想いを持ち続けながら，これまで培ったスキルを発揮し，できることから活動を再開していくことで，熊毛地区の社会教育の更なる発展と充実に繋げていきたいものである。

地区社会教育委員等研修会
【閉会のあいさつ】

全ては子供たちのために

西之表市ＰＴＡ連絡協議会
会長　松田　学

西之表市ＰＴＡ連絡協議会は，小学校10校，中学校１校，高等学校１校の計12校の単位ＰＴＡにより構成され，日々，「子供たちのために何ができるか」を考えながら，各種活動に取り組んでいます。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は，大人や子供に関わらず，多くの人々に多大な影響を及ぼしました。特に，子供たちの学校生活においては，行事の中止・縮小や内容変更，友達や先生との接触制限，給食の黙食，スポ少や部活動の中止や大会参加自粛などに伴う，多岐に渡るストレスや不安を抱え込ませ，大変窮屈な思いを強いられています。

このような状況下だからこそ，ＰＴＡが子供たちにより一層寄り添った活動を展開し，子供たちの健全育成や充実した学校生活をサポートしていく必要性を感じています。コロナ禍において，各学校が積み重ねてきた歴史ある活動を継承しつつ，今，そしてこれからの子供たちに必要な活動は何なのかを改めて考える契機が訪れています。そのため，本協議会では，会員同士が大いに語り合う場づくりを通して情報発信に心がけ，関係機関とも連携を図りながら，各単位ＰＴＡの活動が更に充実するように，しっかりと支援をしていかなければならないと考えています。

「全ては子供たちのために」という思いを，私たち自身の手で形にしていかなければいけません。その私たち一人一人の熱い思いで，この新型コロナウイルス感染症による非常事態を一致団結して乗り越え，子供たちの明るい笑い声が以前と変わらず響き渡る学校生活を継続していけるよう，これからも活動を展開していきたいと思います。

【編集・発行】
熊毛地区社会教育委員連絡協議会事務局
住所　西之表市西之表7590番地
熊毛教育事務所内
電話　0997－22－0535
FAX　0997－22－0521

生徒の未来を拓く，持続可能なＰＴＡ活動

南種子町立南種子中学校
校長　中村　洋一

ＰＴＡ活動は「子供の健全な育成を図ること」を目的とし，保護者と教職員が協力して，理解を深めながら相互に学び合い，自主的で主体的に活動することである。

しかしながら，保護者数が減ったり，学校農園の運営のための技能者が確保できなかったり，感染症等により活動を制限，規制させられたりするなど，本校でも外的及び内的要因によって滞る活動は今後持続的，段階的に見直す必要性があり，まさに変革の時期を迎えている。新型コロナウイルス感染症を例にすれば，今後更に感染が拡大したり，新たな感染症が発生したりして，他者と交流したり，触れ合ったりする機会が減少していけば，地域とのつながり，人間関係の希薄化がますます進むと考えられる。そのことは，生徒たちが自分の将来を開拓していくためにも避けなければならない。

よって，本校では以前から従来のＰＴＡ活動を「持続可能」の視点で見直し，どんな状況下でも活動を円滑に継続できるよう議論を続けてきているところである。

そして，今回，県のＰＴＡ活動研究委嘱公開の指定を受けたことを機に，各専門部ごとに，それぞれが抱える課題に対する解決(対応)策を考察，実践し，その有効性と持続性を検証及び追求し，発信することにした。

発信した内容及び本校の研究は，次の二つの実践に象徴される。一つは，Googleドライブ・フォームなどのＩＣＴ，便利ツールを用いた活動のスリム化の実践。もう一つは，学校農園等の継続に向けた活動の再検討及びマニュアル化，チャート化である。現況に合わせて最適化する過程で生まれたこれらの実践が，今後のＰＴＡ活動を見直したり再考したりする糸口になったのではと感じている。

最後に，委嘱公開に際し，御指導・御支援を賜った南種子町ＰＴＡ連絡協議会，南種子町教育委員会及び関係の方々に心から感謝申し上げます。

県ＰＴＡ研究活動委嘱公開
【講演】

コロナ禍と向き合う中で

南種子町連合青年団
団長　鈴木　拓実

昭和20年に設立された南種子町連合青年団は，今年（令和４年）で77周年を迎えました。

今年度は，「コロナ禍，今後を考える青年団」を活動方針として，ウィズコロナ時代の青年団活動の方向性について検討を進める年と位置付けました。

しかし，今年度も新型コロナウイルス感染症の感染拡大等により，これまで参加してきたイベントの中止や内容の変更・縮小等により活動が制限されました。

そのような状況下で，普及が進む「オンライン会議」ですが，団員全体が参加できそうなイベントの情報を収集することができず，予想以上に活用する機会がありませんでした。

それでも，コロナ禍と向き合いながら，青年団として，何かできることがないかと模索しましたが，これという打開策が見いだせず，ただ日々が過ぎるばかりでした。

そんなある日，ふと，「男時」と「女時」という単語が頭をよぎったため調べてみると，世阿弥「風姿花伝」に出てくる言葉でした。「時の間にも，男時・女時とてあるべし。いかにすれども，能にも，よき時あれば，必ず，悪き事またあるべし。これ，力なき因果なり。」

コロナ禍も，いつかは，終息へ向かう兆しがあると信じ，無理やり物事に取り組むのではなく，今できることに少しずつ取り組むことも重要なのではないかと感じたところです。

そして，また，以前のような活気に満ちた青年団活動ができ，活動の楽しさや成し遂げたときの達成感を得ることができることを信じて，これからも「地元を青年団から」の気持ちで盛り上げていきたいと考えます。

【クリスマス大作戦（令和２年度）】

熊毛地区社会教育指導者研修会（青年団体）をふりかえる

屋久島町教育委員会社会教育課
社会教育係主任　渡辺　晃

令和４年６月25・26日，屋久島町において，熊毛地区社会教育指導者研修会（青年団体）を３年ぶりに対面で開催しました。熊毛地区各市町の青年団が集まり，ＳＤＧｓトークでアイスブレイクを行い，各青年団体での活動報告やグループ討議及び発表などを行いました。

ＳＤＧｓトークでは，６グループに分かれ，各グループで一つの問いに対して，自分自身の考えを１分間の持ち時間で発表していきます。その発表後に，聴いていた他のメンバーが，リアクションカードでリアクションをしていくという内容です。ＳＤＧｓトークを通して，自分自身の価値観や意識していること，自分ならではの経験について振り返る機会となりました。

グループ討議及び発表では，各市町に分かれ，青年団の役割や青年団活動を再確認するために「青年団の役割」と「地域などの特性を活かした青年団活動とは何か？」について協議し，発表しました。「青年団の役割」では，地域と人，人と人をつなげる役割を発表するグループが多く見受けられました。一方で，「地域などの特性を活かした青年団活動とは何か？」では高齢者地域での買い物代行などの新しい青年団活動の提案や現在取り組んでいる活動を発表していました。

この研修会を通して，青年団活動をしていく上では，「自分たちの“地域”のことを考えて」活動していくことがとても大切であると感じました。また，この機会をきっかけに，他青年団との交流や共に活動する機会を増やしていければと思います。

【グループ討議後の発表の様子】

図書室と移動巡回図書車の役割

屋久島町社会教育委員・宮之浦図書室職員
轟木　利奈

屋久島町には宮之浦図書室，尾之間図書室，移動巡回図書車があり，３か所で本の貸し出しを行っています。巡回図書車は，島内の小学校や宮之浦・尾之間両図書室から遠い集落にも巡回しています。

図書室で働いていて印象に残っていることの一つは，巡回図書車のスタッフが「今日93歳の方が新しく登録してくれたんですよ！」と嬉しそうに報告してくれたことです。その利用者の方は図書室から離れた集落に住んでいて，本を好きな方で，巡回図書車が行くたびにほぼ毎回借りに来てくれるようです。

宮之浦図書室は，赤ちゃんからお年寄りまで幅広い世代が利用し，常連さんもたくさんいて，毎回利用者さんと会話をする機会を楽しく感じています。一方で，図書室から遠く離れた人口が少ない集落に住んでいる等，さまざまな事情で図書室の利用が難しい方々も島内にはたくさんいます。

このようなエピソードを聞くと，図書室に気軽に来られない方々へ図書情報サービスを届ける事の重要性を感じます。学校教育では「誰一人取り残さない」取組が実施されていますが，図書室のサービスにおいても同じことが言えます。

今年度は，巡回図書車で口永良部島を訪問し，各集落の巡回やおはなし会の開催，小学校でのブックトークを計画していました。船の欠航で日程を２回変更しましたが，残念なことに，３回目も欠航になり，実現できませんでした。口永良部島から図書室を利用するには，少し大変なこともありますが，来年度も巡回図書車の訪問を計画し，たくさんの方に本と触れ合ってもらいたいと考えています。

【巡回図書車にも本がいっぱい】

コロナ禍でのスポーツ活動

中種子町体育協会
会長　鎌田　哲二

我が中種子町体育協会は，町民のスポーツを振興して，その体位を向上しスポーツ精神を高揚するとともに，会員相互の融和，親睦を図ることを目的に，昭和34年に設立されており，令和５年で64年目になります。

現在は，20競技のスポーツ団体と地区スポーツ愛好家をもって組織しております。

競技部においては，県民体育大会や県競技部主催の大会出場を目指し，日夜練習に励んでいましたが，令和２年の思いもよらない新型コロナウイルス感染症の大流行により，私たちの生活は大きく変化し，マスク着用の新生活となりました。

令和４年県体熊毛大会は，競技別の無観客で開催され，優勝したチームは９月の県民体育大会出場を楽しみにしていましたが，台風14号接近により10月開催のバドミントン競技以外は中止となり，残念な思いでした。

町内においても，町民体育祭や町駅伝大会をはじめスポーツイベントや大人数の集まる諸行事が校区住民との協議のうえ，中止となりました。町民体育祭時に表彰していた優秀選手賞の表彰式だけは実施し，今年度は２団体と５人の優秀選手を表彰しました。

スポーツイベントは，人が集い，共に汗を流し交流していくものと承知していましたが，密を避けなければならない状況にもあります。

現在は，コロナワクチンの接種が進み，感染症対策を徹底し，少しずつでありますが競技部の活動もされております。

しかし，３年間のイベント中止により町内に活気がなくなりつつあります。スポーツの持つ感動を復活させるべく新型コロナウイルス感染症対策を講じ，新生活様式に留意し，スポーツの灯を消すことなくなく，できることを工夫し町民が参加してよかったと思える町民体育祭や町駅伝大会を令和５年度から開催できるよう願っております。

【県体熊毛大会の様子】

日本ＰＴＡ九州ブロック研究大会

中種子町ＰＴＡ連絡協議会
会長　山田　和春

第67回日本ＰＴＡ九州ブロック研究大会おきなわ大会に参加させていただきました。

大会スローガンは，『ひろげ・つなぐ・未来へのリレー～結のこころで～』です。先人たちが築いてきた「知恵」を生かし，「相互補助・助け合い」の精神で培った「美しい心」の下，「親として，大人として，何ができるか」を考え行動し，子供に伝えることが肝要。「結のこころ」には，恕（じょ）・感謝・鵲瑞（じゃくずい），の三つのこころが込められており，「恕の心」が育つことで自分を大切にし，他人を思いやる心が育ち，「感謝の心」が身につき，周りに対しこころから「ありがとう」といえる「鵲瑞（喜びの兆候）の心」が芽生え，自分自身も喜びあふれる生活が実現できると考え，「何が出来るのか，何を成すべきか」を見出し，互いに語り合い，輪をひろげ次世代へつなぐ未来へのリレーの場の大切さを体感できるスローガンの大会でした。

分科会は，特別分科会含め６会場で行われ，それぞれの議題が，第１は「地域と連携したＰＴＡの組織・運営の在り方」，第２は「『親子で考える』予測困難な社会を生き抜く生きる力」，第３は「未来につなげるための学校とＰＴＡの協働活動」，第４は「子供たちの人権意識を高める活動」，第５は「魅力ある広報活動を通した『学校・家庭・地域』の連携による社会教育の推進」でした。

第１分科会に参加し，役員選考に苦慮し組織改編を行ったり，活動を見直したりしながら，ＰＴＡ活動を存続させ，子供の健全育成のために頑張っていることに感動しました。

子育てに関する保護者・地域住民を誰一人取り残さない持続可能なＰＴＡ活動を行うこと，無理をすると継続することが困難になるため，「できる人が・できるときに・できることを」の発想で自然体の活動を行うこと，各家庭がＰＴＡ活動を楽しく行い，気軽に参加できる体制づくりをすることが必要であると思いました。

【全体会会場】